

# 一期一会

彼女とはもう5年ほどの付き合いになる。家から、いや

布団から出られなかつた彼女は今や仕事に生き甲斐を感じるまでになつた。瘦せていた

体も娘らしくふっくらとしてきた。そしてダイエットを氣にするこのごろだつた。月

1、2回の面接もくだけたものになり、もう終わりにして

もいいのでは、と私は思い始めた。

その矢先の入院である。入院したいと彼女が言い、2週間の入院と医者が判定し、入院1週間たつたところで1ヶ月に延長されたといつ。

ううん、なぜだ？ 確かに、ファクターはあつた。彼女を支えていたものが崩れた衝撃はあつた。しかしそれは予想できていた。そしてそれはかけがえのないものではないと彼女は言つてゐた。それ

を乗り越えれば強くなれるところに、私は信じていた。

病気は手強い。いつもありと不眠と不安地獄の中に彼女をつれもどしてしまつた。どこかを切るという入院ではないんだから、ゆつくり眠つておいで、眠りの森のお姫様のように、と私は励ました。今彼女には休養が必要なんだろう。病気が優勢になると人格や理性にお構いなしに、心と体のコントロールが利かなくなつて硬直してしまふようだ。

私は今日、彼女のお見舞いに行く。彼女に頼まれたマグカップのお土産を持ってー。眠りから覚めたらまた一緒に歩き始めるしかない。

(蝶)